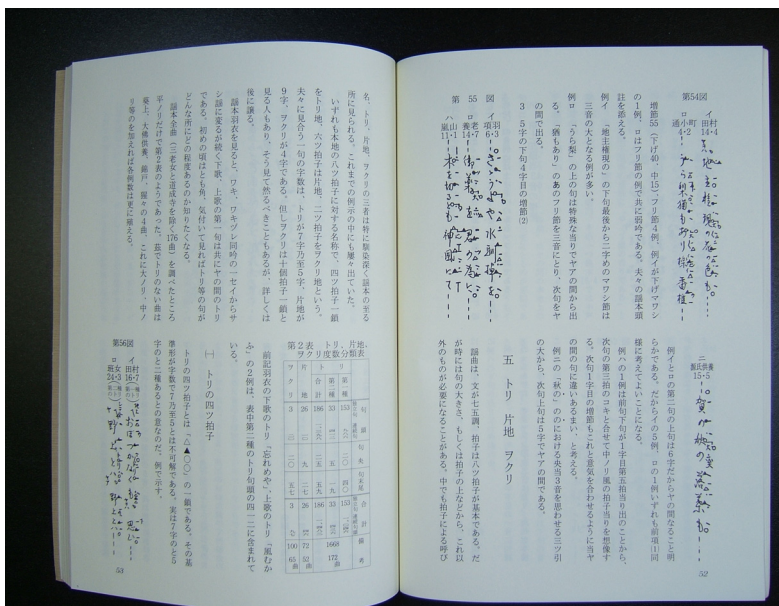
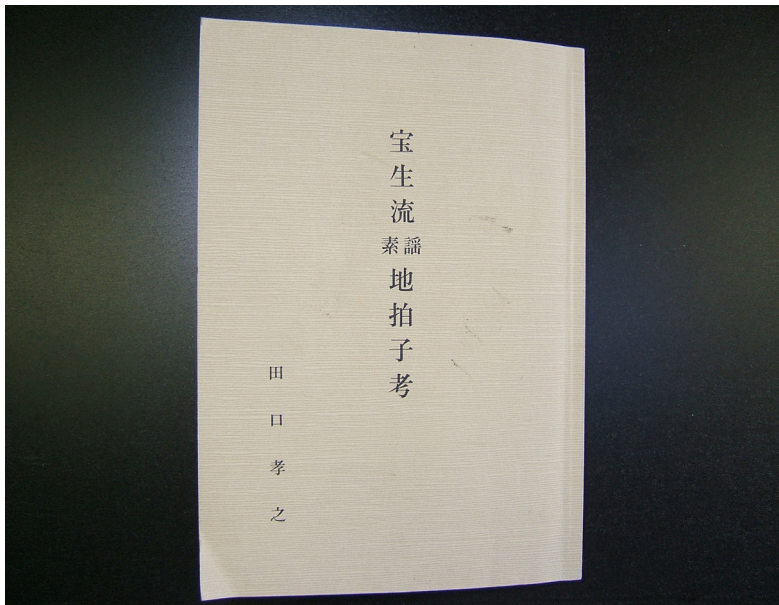


# 田口孝之 『宝生流素謡地拍子考』

正しい拍子の把握には「地拍子を打つ動作よりも節の大きさを適確に把握に把えて謡本通りに謡うのが吾々には大事なのだ」（まえがき）と述べ、節に焦点をあてた地拍子説明をおこなう点が、宝生的であるといえる。引音を厳密に「アア」や「アアア」のように仮名の数で表記、その際、拍子に当るものは大きな「ア」で、当らないものは小さな「ア」で補助的に示す工夫も行われる。様々な当たりや句の種類が分類されるが、ただ分類されるだけでなく出現頻度が計算され、表で示される点、画期的である（写真下参照）。



<b>標題</b> 内題：— 標題紙：宝生流素謡地拍子考 奥附：宝生流素謡地拍子考 その他：宝生流素謡地拍子考（表紙・背）	<b>著者</b> 奥附：田口孝之 その他の場所：田口孝之（標題紙・あとがき・表紙・背）	<b>出版</b> 版次：第一版 出版社：大盛堂印刷出版部 出版年：昭和62（1987） その他の場所：あとがき 昭和62（1987）	<b>形態</b> 冊数：一冊 頁数：一一五頁 寸法：21×15（cm）	<b>状態</b> 写本版本の別：版本 現物複写の別：現物	<b>備考</b>
---	--	---	--	----------------------------------	-----------